

令和8年度生成A I を活用した経営支援モデルの構築に向けた実証業務  
 公募型プロポーザル選定委員会議事要旨（第1次審査）

項目	内容
1	日時 令和8年5月14日から令和8年5月15日まで
2	場所 書類審査のため、各委員に持ち回り
3	出席委員 商工労働局地域経済支援担当部長 総務局DX推進課長 商工労働局中小企業支援課長 商工労働局産業人材課長 商工労働局経営革新課担当課長
4	議題 令和8年度生成A I を活用した経営支援モデルの構築に向けた実証業務公募型プロポーザルに係る第1次審査（書面審査）について
5	担当部署 商工労働局経営革新課
6	開催方法 持ち回り
7	<p>議事内容</p> <p>選定委員会において、提出された企画提案書を基に書面審査を行い、得点が上位の3社を第2次審査（プレゼンテーション審査）の対象として選定した。</p> <p>A社：アデコ株式会社                      B社：株式会社パソナ JOB HUB                      D社：株式会社エジソンエーアイ                      E社：株式会社ブレインワークス                      F社：ライフイズテック株式会社                      G社：株式会社グラファー                      H社：株式会社ロボケン</p> <p>各選定委員の主な評価・選定理由については、次のとおりである。</p> <p><b>【A社】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「7つの汎用タスク」を起点に据えた点や、独自のH-BARS指標を用いた可視化など、業務の実態と定着に焦点を当てた提案である。</li> <li>・ AIが活用できる範囲に関する独自見解について興味深く、活用の範囲が広がる余地に期待したい。</li> <li>・ 実務に適合させるために、業務プロセスではなく、汎用タスクにあわせて、プログラムを設計されている点について評価できる。</li> <li>・ 現場の軽減負担にも配慮されている。</li> </ul>

- ・ 業務プロセス単位ではなく、経営支援業務を横断する7つの汎用タスクを起点として支援モデルを構築する視点は他社にはない提案であり、納得感がある。また、モデル構築後の運用定着に向けた取組についても十分配慮されている。

**【B社】**

- ・ 提案の具体性に欠ける部分が多く、セミナーや相談に終始している印象を受ける。
- ・ 現状課題を把握できており、経営指導員の実情を踏まえた取組を実施できることを期待する。
- ・ 対象となる支援機関からヒアリングを行ったうえで、プログラムを企画提案されており評価できる。
- ・ 経営指導員に対する個別伴走支援等の内容については大変充実しているものの、支援モデル構築という本業務の核となる部分についての説明がもう少し欲しい。
- ・ 独自提案の内容について、仕様要件となっている内容との相違がよく分からない。

**【D社】**

- ・ 現場の負担を最小限に抑える仕組みや、ヒアリング時の心理的安全性の確保など、対象者に寄り添った解像度の高いアプローチである。
- ・ AIのツールとしての活用の解像度がやや弱い。
- ・ 現場で使うことを続けられるという視点で、ボトムアップで設計されている点は工夫している。
- ・ コミュニティの設置は評価できるが、継続的な運営や効果をもう少し詳しく説明していただきたい。
- ・ プロトタイプ構築に向けた設計思想・仮説について、もう少し具体的な説明が欲しい。複数の自由提案がなされている点は評価できる。

**【E社】**

- ・ ツールを用いた業務棚卸しや、1クリックで自動蓄積するシステム連携など、ツールを活用した独自のアプローチが評価できる。
- ・ AIの特性等を理解した上での取組提案となっている点は評価する。
- ・ 自社の見える化診断サービスを活用して分かりやすい制度設計になっている。
- ・ 全体的にもう少し具体的な説明が欲しい。複数の自由提案がなされている点は評価できる。

**【F社】**

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務趣旨を深く理解し、提案がなされているものの、やや具体的なA I活用等のイメージ像が十分でない。</li> <li>・ 次年度以降の組織展開に向けた独自の取組について期待する。</li> <li>・ 次年度以降を見越して、実情やニーズに合わせて展開できるよう工夫された提案である。</li> <li>・ 全体的にバランスのとれた充実した内容の提案となっている。一方で、これまでの経営指導員向けの受託業務の実績を踏まえたプロトタイプ的设计に向けた仮説設定などについて、もう少し説明が欲しい。</li> </ul> <p><b>【G社】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の性格に合わせた 3 つの組織展開パターンの提案や、自社A Iツールの無償提供など、目的を理解した提案である。</li> <li>・ 取組の成功に関するポイントや要因について整理されていることを評価する。</li> <li>・ 「経営支援モデルの自立的普及」と「参加型プログラム設計」に関して高く評価できる。</li> <li>・ 各取組の内容についてはコンパクトかつ分かりやすくまとめられている一方で、もう少し具体的なイメージができるような説明が各所で欲しい。</li> </ul> <p><b>【H社】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務目的を理解したうえで適切なアプローチが描かれているものの、具体的なツールや実践手法が明瞭でない。</li> <li>・ プログラムの企画・設計の考え方について整理が出来ている点は評価する。</li> <li>・ 研修で終わらず、自立支援に向けた取り組みまで考えられた提案である。</li> <li>・ 各取組の内容について、もう少し具体的な説明が欲しい。</li> </ul>
--	--	---